

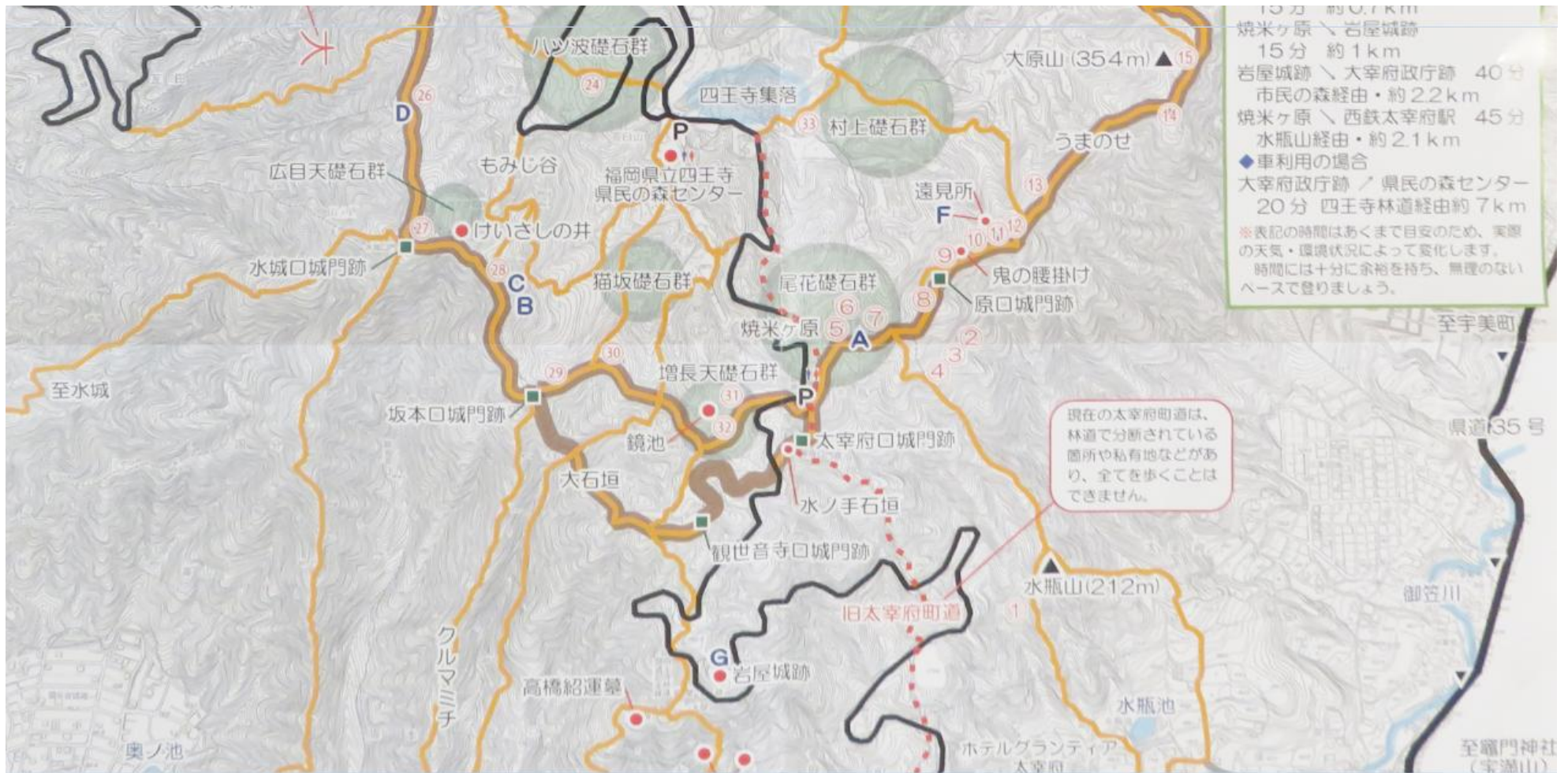
大野城跡(太宰府市) 百閒石垣 探訪

水城跡の「欠堤部」からを東方向の四王寺山を見たところ/その四王寺山に大野城跡が展開している



大野城跡 全体図





↑
 ホテルグランティア太宰府

ホテルグランティア太宰府から出発



振り返るとこんな景色/前方は太宰府天満宮方向か



さて、車でかなり北方向に進んだこのエリアが「特別史跡 大野城跡 百間石垣」/説明板が立っている





天智2年(663年)、白村江の戦いで大敗し唐・新羅の侵攻に備えて国防体制の充実が急がれ、大和朝廷は太宰府を防衛するために天智3年(664年)水城を築き、翌年の天智4年(665年)には百済の亡命高官2名に命じて大野城を築かせた/百済の山城がモデルとなっているので、このような構造を持った山城は朝鮮式山城と呼ばれている

特別史跡 大野城跡 百間石垣

大野城の城壁は土を高く盛り上げた「土墨」で囲まれているが、起伏の激しい地形のため谷間は土墨でなく石を積み上げたダムのような石墨とし、急傾斜部は石垣を作るなど工夫をこらしている。この「百間石垣」の名称は、四王寺川の部分を石墨とし、それに続く山腹部を石垣とした城壁で、長さが180mほどであることから名付けられたものである。平均4mくらいの高さが残っており、川底部では石墨幅は9mほどある。外壁面の角度は75度前後である。この川の中から今までに3個の礎石などが発見されており、川に近い場所に城門があったと考えられる。



四王寺川越しの前方上部に百閒石垣の一部を見たところ/右手に説明板が立っている







大野城跡

大野城跡位於大野山，是日治時期由日本軍人興建之軍事據點。其遺址位於大野山山頂，佔地約十餘公頃。城址周圍設有溝渠，城內設有砲台、兵舍、倉庫等設施。城址於1945年日本投降後被廢棄，現僅存遺址。1984年，經行政院核定為國家史蹟，現由內政部國史館管理。



大野山位於大野山山頂，佔地約十餘公頃。城址周圍設有溝渠，城內設有砲台、兵舍、倉庫等設施。城址於1945年日本投降後被廢棄，現僅存遺址。1984年，經行政院核定為國家史蹟，現由內政部國史館管理。



大野山山頂，一處軍事設施遺址。



大野城のシンボルマーク

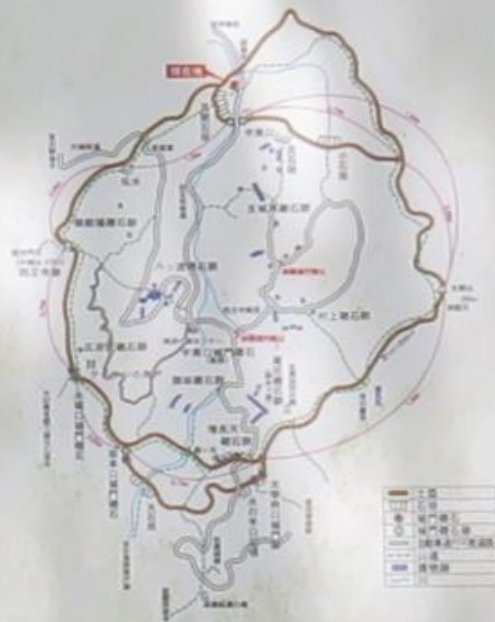
特別史跡 おおのじょうあと

大野城跡

所在地 宇美町、太宰府市、大野城市
指定日 昭和28年3月31日

大野城

大野城は白村江の戦（663）の後、唐・新羅からの侵攻に備えて西日本各地に築かれた山城の一つで、北西の水城、南方の基肄城とともに大宰府政庁を中心とした防衛ラインを形成していました。この山城は百済の亡命高官2名による戦略的・技術的指導のもと築城されたことが『日本書紀』に記されることから、一般に朝鮮式山城と呼ばれています。大野城は政庁の北に聳える四王寺山中（標高約409m）にあり、北は博多湾から南は筑後方面を眼下に納める絶好の場所に立地し、山頂と山腹に土塁が、谷間には石垣が構築されています。現在、確認されている城内への入口は5ヶ所あり、食料の備蓄や居住に利用されたと考えられる70棟余りの建物が丘陵を造成した平坦面に残されています。



大野城跡全体図



太宰府口城門



増長天礎石群





大宰府史跡と大野城跡

ひゃっぴん 百間石垣

百間石垣は大野城の北の要（宇美口）に位置し、石垣の全長は150m以上あり城内最大の規模を誇ります。石垣の大半は頑強な岩盤の上に構築され、裏込めに栗石を使用した透水性の高い断面構造をなし、石垣の南側には地下水を排出するための吐水口が設置されるなど、水に配慮した当時の技術の高さを窺い知ることができます。

昭和48年の水害によって百間石垣の前を流れる川が氾濫、土砂崩れも重なり石垣は大きな被害を受けました。復旧工事に併せ発掘調査を行ったところ、石垣の基礎や川の中から城門の礎石と考えられる石材が発見されました。平成13年度からは石垣の保存のために修理が始められ、この時行われた工事で中央の石垣の裏から版築状の盛土が発見されるなど新たな知見を得ることができました。ところが平成15年7月の集中豪雨によって山林が崩壊、この土砂災害によって百間石垣は甚大な被害を受けました。工事は一時中断しましたが、復旧に取り組んだ結果、現在のような姿によみがえりました。



大石垣（平成10年当時）



水城口城門礎石



百間石垣案内図



石垣の基礎



見つかった礎石



石垣裏から見つかった版築



土砂災害

平成18年3月 福岡県教育委員会



百閒石垣案内図







大野城跡全体図



太宰府口城門



増長天礎石群



大石垣（平成10年当時）



水城口城門礎石



石垣の基礎



見つかった礎石



石垣裏から見つかった版築



土砂災害

さて、百間石垣へと登ってみよう



大野城は四王寺山の尾根に沿って土塁が築かれているが、中には尾根を分断する谷間が存在する箇所もあり、そのような所では土塁の代わりに石垣を積んで敵の侵入を防いでいた



石垣をアップで見たところ



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ



行き先表示がある/右手の石垣見学路を進んでみる



折れを伴った石垣



こんな塩梅



右手に進んで行く



前方に野草採りの小父さんがいる/相当の高さの石垣であることが見て取れる



アップで見たところ



振り返って石垣を見たところ



こな塩梅



アップで見たところ



先程の行き先表示の所まで戻ろう



下を見るとこんな塩梅



行き先表示の左手の尾根を登って石垣の上に進もう



右手に石垣を見たところ



振り返って尾根を見下したところ



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ



尾根を登り切ると石垣の上の通路があり、正面に説明板があった



埋もれていた石垣

百間石垣は北端の山裾から南端の道路際まで約150mの長さがありますが、現在、その中央付近にあたるこの場所では、石垣の姿を観察することはできません。しかし尾根となっているこの場所にも石垣が続いているのではないかと推定されたことから、平成14年2月、石垣の修復に合わせて発掘調査が行われました。トレンチ調査を行ったところ、地表直下にしっかりとした石垣(5トレンチ)が見つかりました。幅40cm・高さ20cmほどの石を丁寧に積み上げた大野城跡固有のもので、実測と記録をとった後、保存のために埋め戻してあります。



中央尾根地形図とトレンチ位置



5trで確認された石垣



4trで確認された石垣



3trで確認された石垣



1trで確認された石垣の根石

平成18年3月 福岡県教育委員会

登って来た尾根にも石垣が続いていたようだ



そこで右手を見たところ/右下が石垣



同じく左手を見たところ



右手に進んでみよう



石垣は折れを伴って北方向に続いている



こんな塩梅



その先も更に続いている/長さが約150m以上あり、百間石垣と呼ばれていると云う



そこで振り返って見たところ/野草採りの小父さんが見える



アップで見たところ



下を見るとこんな塩梅



登って来た尾根の所へ戻ろう



途中下を見下ろすとこんな塩梅/敵がこんな急峻な斜面を登ってくると石垣の上から反撃されるしくみ



アップで見たところ



参考ホームページ

<https://www.town.umi.lg.jp/soshiki/12/oonojou.html>

https://www.isan-no-sekai.jp/feature/201711_08

<http://www.geocities.jp/qbpb900/onojo.html>

<http://kankodori.net/japaneseculture/site/053/index.html>

<http://blog.livedoor.jp/blues12345-001/archives/17402126.html>

